

第1回勝山市立中学校再編準備委員会 議事録

(1) 日 時：令和7年4月28日（月）午後7時より（勝山市教育会館 第1研修室）

(2) 参加者：準備委員20名（2名欠席）、事務局9名、報道1名、傍聴3名

(3) 内 容

①開会

②委員委嘱

③委員長・部会長の選出

④教育長あいさつ

⑤協議事項

・勝山市立中学校再編準備委員会開催要綱（案）について

⑥今年度の取組みについて

・総務部会、学校運営部会、PTA部会、施設整備部会

⑦その他

・勝山市中高一貫教育推進協議会について

《開会・委員委嘱・委員長・部会長の選出》

- ・委嘱書は机上に配布。
- ・設置条例に従い委員長を互選。
- ・準備委員会委員長に清川 亨氏（福井大学大学院連合教職開発研究科教授）、
- ・総務部会長と学校運営部会長に清川 亨氏、
PTA部会長に木下克則氏（勝山高校同窓会名誉顧問）、
施設整備部会長に西本雅人氏（福井大学学術研究院工学系部門准教授）を選任。

《委員長・部会長あいさつ》

委員長 ・昨年度、一昨年度と同じく委員長をさせていただいた。その時にもお願いをしたことを改めてお伝えしたい。この会に出てきて、椅子の重しをして帰るというのはぜひやめていただきたい。ご自身の直感で何かおかしいなと思ったらおかしいという意見をどんどんと出していただきたいと思うし、ご自身の意見でなくても、それぞれの場所での代表として来られていると思うので、周りの方の声も吸い上げて、ぜひここでお伝えいただけたらと思っている。事務局の案だけでたんたんと行けばいいというものではないと思うので、全く逆サイドからそれは違うのではないかと、この視点が抜けているのではないかと、いろいろご意見をいただきながら、子ども達のために、

将来の勝山市のためにいいものを作っていけたらというふうに思うので、どうぞよろしくお願ひしたい。

部会長 ・これまで学校づくりや建設に関わってきた。勝山の中学校も工事会社が決まり、来週ぐらいから工事が本格的に進むということでいよいよ始まっていくなと思っている。ただ設計事務所でも働いた経験もあるが、建物が完成するまで変えることができるので、よりよい学校にしていくためには、すごく細かいところでもいいから、例えばコンセントの位置がこちら側の方がいいのではないかと、気づいたら、どんどん発言していただきたいと思う。施設整備部会としては、学校の備品とか、学校の歴史をどう新しい学校に引き継いでいくかということも、重要な議題になってくるかと思う。その歴史については、皆様方が一番ご存知だと思うので、その情報を教えていただければと思う。ぜひまたこれからよろしくお願ひしたい。

部会長 ・これまで、PTA関係の方では、小学校や勝山高校、市PTA連合会の方にもいろいろ携わってきたということでこのPTA部会の方の取りまとめをさせていただく形になっている。PTA部会の方では、準備委員会の設立当初から、PTA部会長という形で携わらせていただいているが、主にスクールバスに関して運行に関するいろいろな取り決め、また新中学校におけるPTA組織のあり方などについて協議している中で、今年はいよいよスクールバスの方もおおた路線等も大体皆さんのコンセンサスをいただいている。それに基づいていろいろ細かいところの打ち合わせに入っていきたいと思うので、今年一年どうぞよろしくお願ひしたい。

委員長 ・ここにいらっしゃる皆様にも、一言いただけたらと思う。簡単に自己紹介だけで結構なので、極めて簡単に一度発言しておくともた後で発言もしやすいかと思うので、声を出していただけたらと思う。

(委員の自己紹介)

委員1 ・この会は今回初めてなのだが、新聞とかいろいろな面でこの再編のことを見聞きしているので、勉強のつもりでここへ来て、皆様のご意見を聞いて一緒に学習したいと思うのでよろしくお願ひしたい。

委員2 ・一年間どうかよろしくお願ひしたい。

委員3 ・先ほど言われたように、新聞ニュースでこういう会もあるというのは見たり聞いたりしている中で、これからの子ども達のために、いい勝山の学校というのを目指しているいろいろ協議できたらと思うので、よろしくお願ひしたい。

委員4 ・昨年一年間、この委員会に初めて参加させていただいてできるだけPTAの方からの声を届けていきたいと今年も引き続き思っているので、勉強しながら思ったことは言えるようにしたいと思う。よりよい学校にできるようによろしくお願ひしたい。

委員5 ・私の方は昨年参加させていただけなかったが、前会長からもすごくためになる勉強になる会であるということを聞いているので、私も何か意見があれば言いたいと思っている。一年間どうぞよろしくお願ひしたい。

委員 6 ・今年度も引き続き鳥の目、虫の目で意見交換をやっていききたいと思う。よろしくお願いいたします。

委員 7 ・一年間よろしくお願いいたします。

委員 8 ・初めてこういう会議に出席するので、市報とかは見ているが、実際どのように決まっているのかとかいろいろ勉強させてもらえたらいいなと思うので、よろしくお願いいたします。

委員 9 ・今年度初めて参加させていただく。我が子はちょうど新しい中学校の第一期生に該当するので、意見の方を届けていけたらと思う。どうぞよろしくお願いいたします。

委員 10 ・今年度初めて参加する。再編に向けて一体どういうことをしていくといいかを考えながら一緒に考えていききたいと思う。どうぞよろしくお願いいたします。

委員 11 ・昨年まで参加していた。今年もよろしくお願いいたします。

委員 12 ・よろしくお願いいたします。

委員 13 ・よろしくお願いいたします。

委員 14 ・よろしくお願いいたします。

委員 15 ・よろしくお願いいたします。

委員 16 ・私の子どもも中学校の一期生になる予定ということで、少しでも力になればと思っています。よろしくお願いいたします。

委員 17 ・うちの子も一期生。新中学校に通うことになるのでいろいろ学ばせていただきたいと思う。よろしくお願いいたします。

委員長 ・皆さんありがとうございました。今年は何人かの紹介があったように、一期生の保護者の方もいらっしゃるということで、いろいろな熱い思いもあるのではないかと思いますので、ぜひご発言いただけたらと思う。

《教育長あいさつ》

事務局 ・協議事項に入る前に教育長からご挨拶を申し上げます。

教育長 ・本日は第1回の勝山市立中学校再編準備委員会ということで、お忙しいところご出席いただき誠にありがとうございます。今年度は半分くらいの方が新しい方ということで、委員の入れ替えもあった。快く委員をお引き受けくださったことについて重ねて感謝を申し上げます。最初なので、今日はいろいろ説明することが中心になることが多くなると思うが、ご了承ください。

・この再編準備委員会とは何かという話だが、これは行政の言葉で言うと、附属機関という言い方をするが、行政つまりこの場合だと市教育委員会、私たちが行政の事務を執行する。つまり、新しい中学校の開校の準備を進めていく事務を遂行するために条例

でこの委員会を設置して、委員の皆様方からいろいろな意見、提言をいただくとか、あるいは事務局の案などをご審議していただく。そういった性質の委員会になる。実はこの再編準備委員会については、オープンな会議ということで、傍聴の方とか、報道の方も入られる会議ということになっている。もう一つこの準備委員会の下に専門部会ということで、各部会を設置しているが、そちらについては委員の皆様が遠慮なく自由に意見を交わしていただきたいという思いで、部会については非公開という形にさせていただいている。ただしその部会で協議した内容はいわゆる議事録として氏名は載せない形で、そして部会に提出した資料と合わせて市のホームページの方に報告をさせていただくという形で、これまで進めさせていただいた。今年度もそういった形でお願いしたいと思うので、どうぞよろしくお願いしたい。

- ・この委員会は令和4年度に初めて設置をし、今年度は4年目になる。過去3年間、メンバーの入れ替えも多少あったが、新中学校開校に向けたいろいろなご審議をしていただいた。設置した1年目の令和4年度は、基本計画を一年かけて策定するという仕事を中心だった。2年目の令和5年度は策定した基本計画を基に実際の基本設計に落とし込んでいく作業を中心に進めて、5年度の末に建設工事の予算を市議会の方でお認めいただいた。3年目の昨年度についてはその基本設計をもとに具体的な設計、実施設計というが、その実施設計を進めるとともに校舎の建設に向けて入札を行い、業者を決定し、また議会でその契約についての議決をお認めいただくというような形で、今年度を迎えたということである。従って校舎を建設する、それから、地下横断歩道も建設がスタートしており、ハード面については今までの3年間を通して作業を進めてきて、概ね軌道に乗った形という状態である。もう一つは教育内容とか、学校生活のいろいろな細かい話で中高連携ということがキーワードになるが、こういったこともこれまで並行して議論してきた。建設の方に一定の目処がついたということになるので今年度はその教育内容等のソフト面についてのご協議を中心をお願いするという形になろうかと思う。後ほどの資料の説明の中でお聞きいただきたい。
- ・本日初めて委員になられた方がいらっしゃるということなので、この後はパワーポイントを使って、少し時間をいただいて、これまでの経緯、それからその中で方向性が概ね決まってきたものなどをかいつまんで説明をさせていただきたいと思う。
- ・ベースとして勝山市の子どもがどんどん減っている。もちろん人口も減っているが、これは一年間に生まれた子どもの数、出生数と言うが推移がこうなっている。昨年度が76人で1年間に生まれた数になる。もう一年前、令和5年度は86人ということで、4年度までが100人台で来たが、今ここ2年間は100人を切っている状況になる。それから中学校の生徒の数は同じように減っている。今年度は学校がスタートしているが、中学生の数は合わせて478人ということで、500を切っているということになる。一番多い時には1609人いた。ちょうどこの昭和49年とか50年というのは私が中学生だったころになる。それに比べると1/3近くになっているというような状況である。この中で平成16年度あたり、約20年くらい前からずっと子どもが減っていくということで、小学校も含めて小中学校のあり方を検討するという会を市の方で持って、それ以来、長年にわたって検討してきた。その話をするとなんかすぐ時間がかかる。中学校については、小学校に先行して再編を進めていこうという流れになって、令和3年度末に中学校の再編計画を市が策定した。これの計画のもと

になる中学校の再編検討委員会の答申も、実はこの前にあるが、その答申を踏まえた計画、その計画の内容は、今の3中学校を1校に再編統合するということと、もう一つはその中学校を勝山高校の敷地内に建設をして勝高との中高連携を進めるべきというふうに書いてある。連携型中高一貫教育は後ほど説明するが、こういったものを導入するということが謳われている。その次の年、先ほど言った 令和4年度の仕事になるが中学校の建設基本計画を一年かけて策定をしている。これが新しい中学校の学校像とか生徒像、それから校舎建設の基本構想、その設計に向けた基本計画というような内容のもので、これは勝山市のホームページで公開をしているので、時間がある時に見ていただければありがたい。なぜ統合するのかという話はいろいろな観点があるが、やはり子どもが少なくなるということがキーワードであって、特に中学校の3年間というのは、大人へと成長していく過程の中で、社会性とか人間性をしっかりと身につけていくことが必要だという時期である。学校の規模が小さくなっていった生徒の数が減ってくると、もちろん一人一人きめの細かい丁寧な教育ができる。これは子ども達にとってすごくいいことだと思うが、生徒の人間関係が固定化する。クラス替えができないとか、本当に少ない学校だと、幼稚園保育園から小学校、中学校まで同じ人間関係できているということ、集団活動や協同的な学習など一定の集団の中で行うと効果があると言われることについて制約が生じる。つまり多様性とか協同性が十分に機能しない。それから部活動でもチームプレーが組めないとか、精選して減らしていかななくてはいけないということがある。先生の方も子どもの数で先生の数を決まるので教員の数が減ってくる、中学校では専科の教員が不在になったりするという課題もある。このタイミングで中学を統合して多様な生徒がいる集団の中で、お互いを認め合ったり尊重し合いながら切磋琢磨をする、学習とか体験活動に取り組む環境を提供していくことが必要である。このような考え方のもとにこういった仕事を進めてきているとご理解いただければと思う。

- ・新中学校が目指す教育として、これは基本計画に掲載してあるが、今言ったように勝山高校の敷地内に校舎を建てる、近隣にはジオアリーナとか長山公園グラウンドもあるので、こういったものを一体的に活用するという事で、新たな文教ゾーンを整備する。そこで中高生が共に学び交流することで、お互いが成長していくということを狙うということである。そのために中高一貫教育を導入していこうという考え方になっている。これが勝高の俯瞰図になるが、勝高の校舎はこの白いところ、これは第一体育館、ジオアリーナ、長山がある。これはまだ設計の段階ではあるが、ここのとこに勝山中学校を建設する計画で進めている。先ほども自己紹介で話があったが、今年の中学校1年生が、令和9年度開校予定なので、その時に新中学校の3年生として、今の3中学校から移っていただく。7年度と8年度は今の3中学校にそれぞれ在籍をしていただく。それから今年の小学校6年生は、来年中学校入るが、これは新中学校ができたときの2年生、小学校5年生が新中学校の第1回の入学生という形、これが今年度の状況である。
- ・目指す学校像と目指す生徒像を掲げている。これは二つともこの中学校建設基本計画に掲載をしている。時間のこともあるので、一つずつ読まないが、学校像として四つ、それから生徒像としても四つを掲げ、これを実現する学校を作っていこうと取り組んできた。昨年度までのこの準備委員会とか各部会の議論も常にこういった学校像とか生徒像が実現できるかということを念頭に置いてそれに向かっているいろいろな意見を出

していただけてきたという経緯である。これは今後の部会などの資料等にもまた掲載をさせていただきたいと思っている。それから、連携型中高一貫教育という言葉が出てきて初めて聞く方もおられるかと思う。福井県では実は3地域で先行して実施をしている。金津中、あわら中と金津高校が越前町立中学校と丹生高校、それから美方中、美浜中、上中中と美方高校という関係で実施をしている。ちなみに高志中、高志高校というのは中高一貫校だが、これは連携型ではなくて、併設型という違うタイプの中高一貫教育をしている。またこれも説明すると長くなるので、部会等で折に触れて話をしていきたいと思う。この連携型中高一貫教育というのは中学校と高校の授業はそれぞれ基本的には独自に実施をする。中高一貫だからといって、ずっと何から何まで中学生高校生と一緒に何かをするというイメージではなくて、基本的にはそれぞれ別々の授業をしていく。その中で教育効果が高いと思われる教育活動について、中高が連携をしていくという、中高一貫教育校の中では一番緩い形の中高一貫である。例えば高校の先生にもお手伝いしていただいて、ティームティーチングの授業をしてみるとか、探究的な学習、生徒会活動とか、部活動学校行事など、こういうところでは、中学生高校生が連携してできるという余地が広くあるので、こういうところで教育効果を高めていくような活動を考えていきたいと思っている。それから卒業した後の高校などの進路選択も自由である。勝高と中高一貫ということだからみんな勝高へ行くのかという話になるが、そうではなくて、現在の中学校と同じようにどの高校を進路で選択していくかは自由である。ただ地元の勝山高校とは中高一貫という特別のカリキュラムも考えてやるので、勝高を目指す生徒には、五教科の学力検査ではなく、簡便な入試と言うが、簡単な入試で選抜するというような制度も導入して良いということなので、こういったものの導入も合わせて検討してきているという状況である。新しい中学校と高校との連携ということで、考えている主な教育内容としては、サポート授業はT Tで高校の先生が手伝いしていく授業を英語と数学で考えている。それから、勝高探究特進科とか普通科も探究をしっかりとやっているの、探究的な学習を中高連携してさらに深められないか。ライフデザインタイムというのは、いわゆるキャリア教育で、キャリア教育というのは、進路指導という言い方もするが、子ども達が自分をまず理解し、将来に向けて自分の特性とか希望を考えながら進路を考えていく、そこにつながるような教育支援をしていくというものになる。それから学校行事として体育祭、文化祭とか、日頃やっているいろいろな特別活動とか部活動は生徒主体でできるということで、先生の枠組みの中でやるのではなくて、生徒主体でどんどん進めていくような支援をしていきたい。そういう中で主体性を育みたいと思っている。それから今の時代は当たり前だが、新しい学校を作るにあたっては、ICT環境もしっかりと充実させていく、その効果的な活用についていろいろ考えていきたいと思っている。先ほど冒頭言ったが、今年度皆様方をお願いして考えていただきたい主なものとしては、中高連携に係る教育内容とか、高校の入学者選抜、それからスクールバス関係で通学方法、ルールなども含めた学校生活、それから施設設備の整備といったところで、まだ検討段階のものが多く、これについていろいろと忌憚のないご意見をいただきたいと考えている。

- ・ここからは、決まった内容とか、方向性が大体定まってきたものを説明をさせていただく。これは昨年度発行した勝山市立中学校再編準備委員会だよりで学校の方からメール等で配信をお願いしているが、その第2号、これは小さいので、皆さんの資料

の後ろの方にもつけさせていただいた。この第2号は新しい中学校の校舎がこんな教室ができるというようなことを中心に記事にさせていただいている。これも一つずつ言っていると時間がかかるので、主なところを申し上げますと、まず地下横断歩道については、横が5.5m ぐらいの幅の広い歩道で、中は外履きで直接歩けるレーンと内履きで歩けるレーンを設けて、学校からジオアリーナまで内ズックのままで行ったり来たりできる。それから、スクールバスの乗降所。これがジオアリーナ側に設けるように検討しているので、バスを降りた子がこの地下横断歩道を通して、学校の方に来る、それで外履きレーンがある。普通教室は今の中学校の教室よりも広くしている。廊下も今の中学校よりも幅の広い廊下。特にタブレットを授業中使用するので、生徒の机の天板も今よりも広くして、タブレットを置いて学習することに支障がないようにと想った設計となっている。それから給食室を校舎のジオアリーナ側に設置をし、勝山市の中学校で初めて自己給食を目指していくということで、今検討を進めている。特徴的なエリアとしては、この2階になる図書館になる。これは教室四つ分ぐらいの長い大きな図書館ということで、中学校と高校も共用する図書館としている。2階の図書館に上がる階段として東側と西側に大階段という福井駅の新幹線の降りたところにある大階段、ああいうイメージを持ってもらえばいいと思うが、その大階段を二つ設置をして、ただの階段ではなく、そこに座って授業を聞いたり部活動の発表とかいろいろなことができる場に活用していきたいと思っている。3階のところには3年生の教室が中心だが、学習エリアということで、いわゆる自習室的な部屋、自分で行って勉強を自由にできるような部屋も設けている。特別支援関係で配慮が必要な子ども達については、この2階の東側のところに固めて、通級教室と一緒に部屋も仕切って、たくさん教室ができるようにと設計をしている。これも時間のある時にこの便りを改めてご覧いただければと思う。

- ・地下横断歩道は先ほど言ったが、幅5.5m、出入り口はオートロック式の自動ドアを設置して誰でも簡単には通行できない。カードがないと通行できないというセキュリティを考えている。中には複数の防犯カメラを設置し、内装はイメージ図だが、こういったことを前提に中身をしっかり固めていきたいと考えている。それからこの図は同じ保護者だよりの第5号になる。縦長なので、関係のところだけ抜き出したが、これは勝高の話が出ていて、実は勝山高校第一体育館、第二体育館もそうだが隣にある特別教室棟という、ここは中学校も使わせていただく。中高が共用するエリアになる。第一体育館は昨年度、大規模リニューアルをして、新聞にも出たと思うが、ものすごく新しい感じで新品の体育館みたいになっている。LED照明とか壁も木質化して暖かい感じになっているし、今エアコンはないが、送風機がたくさんついている。エアコンも9年度の中学校の開校の年には、稼働できるような方向で県は考えていただいていると伺っている。それから特別教室棟の方は普通教室ではなくて、家庭科とか音楽とか理科とか芸術の教室があるところだが、ここも県の方で大規模に改修をいただいている。1階は、家庭科調理室と被服室、これは中高が共用。理科室は主に中学校が専用で使う理科室として2部屋、それから中学校だけに授業がある技術室。それから、探究理科室ということで、探究的な学習が効果的に進められるという新しい部屋も1階には設けている。2階は主に高校が使う部屋ということで、物理、化学、生物の実験室とかコンピューター室。真ん中にある理科講義実験室は中学校も高校も使う共用の部屋として整備を考えている。3階に上がるとここは美術室が二つ、音楽室

も二つということで、中高が共用して使う。それから新しく吹奏楽練習室、これまでなかったがこういった新しい部屋も作って、中高の吹奏楽部が防音もあってしっかり練習できるようにという環境を作っていきたいと考えている。

- ・今年度から中学1年生は、新しい制服になった。ジェンダー対応ということでズボンスカートは男子も女子も自由に選べるというブレザー型の制服を決定した。胸のエンブレムは中学生のデザインを採用して決めた。体操服もこんな形で、夏冬は当然だが夏でも長袖を着たいと、肌が弱くて日差しに弱いとか、冷房で寒いとかいうニーズがあるので、希望者として長袖の薄いシャツというのも使う。それから体操服のロゴマークはこういう形のものを首の後ろの背中につける。ズックについても、これまでは例えばこのマークが色違いだったり、靴紐が色違いで学年が分かるようにという配慮もあったが、新しい中学校ではなくして学年の区別をしないというような形にしているし、通学カバンも学校指定の物品としては決めずに、こんなものを推奨しますという形で、買うのはどこで買っていただいてもいい。大型のリュック式でいろいろなものがタブレットも含めて一度に入る。カバンを担いで両手が塞がるような通学は危ないし大変だということで、こういったものを推奨品とした。この背景にはなるべく学校が細かいことを指定して決めていくのではなくて、自分の判断、ご家庭の判断でやってもらっていいという思いが込められている。そういうことも基本として今年度の協議も進めていきたいと考えている。
- ・バスについては検討中ということで書かせていただいた。学校から1.5kmより近いかわいそうで分けるということで、1.5km以上についてはバスまたは自転車。自転車だが6kmも7kmも離れているところから中学生が自転車で来るというのは別の意味で安全性に問題があるということもある。自転車は何kmまでと決めているわけではないが、できるだけバスを使ってくださいというお願いをしていこうと思っている。合わせて保護者の皆様には、通学の安全確保とか保護者皆さんの負担軽減でバス通学を推奨しますので乗ってくださいというふうをお願いをしていこうと思っている。送迎する場合は自家用車はジオアリーナの駐車場の方に止めていただいて地下横断歩道で学校へ来ていただくということで、勝山高校の門を入った辺りはすごく車がたくさん来ると危険なので、カーブして入ってくるということもあるし、坂道ということもあるので、できるだけジオアリーナの方で止めていただく。緊急時はもちろん学校に来てもらえばいいが、こういったことを基本として話を進めている。それから先ほども出たが、ジオアリーナの国道に面したところ、後ろ側になるが、ここに乗降所を作ってバスを降りるとすぐ地下横断歩道の入り口があるというイメージになる。市内各地区から路線バスでジオの方へやってくる。これには市民の方、高校生も乗車できるようにと考えている。中学生専用のスクールバスということではなくて、市民も乗れる路線バスをスクールバスとして活用するというイメージで捉えていただければと思う。料金については無料で、市民が乗っても高校生が乗っても誰が乗ってもお金をいただかないという形。それから学校の始まる時間とか、部活動が終わる時間とかも考えて、今のところは朝1便、夕方2便を考えている。ここについては昨年度もいろいろご意見をいただいているところなので、検討をさらにしていきたいと思っている。基本としては、長くてもバスに乗っている時間は30分ぐらいに抑えたいと思っている。スクールバスの路線は、現在市内は10路線バスが朝夕走っている。我々はそれを12路線に広げて走らせられないかと思っているところで、基本的には市内の各バス停をつな

いだ線になっている。これについてはバス事業者との話もあるし、新規にバスを買う必要があるのがないのかとか、運転士の確保とか、いろいろな条件もあるので、そういうところを総合的に見ながら勝山市の公共交通をどうしていくかということも含めて、決定していきたいと考えている。ざっとこういう話でこれまで来た。今のたよりについてはQRコードの方で市のホームページに入って他の号も見れるのでご覧いただければありがたいと思う。

- ・先ほど言ったが、今年度皆様方にいろいろとお願いしたいことについては、この後の資料で担当から説明をさせていただきたいと思うので、今年度1年間どうぞよろしくお願いしたい。

《協議事項》

(勝山市立中学校再編準備委員会開催要綱(案)について)

事務局 ・それではこの後の進行を委員長にお願いしたい。

委員長 ・では時間もあるのでレジュメに従って進めたいと思う。5番の協議事項ということで事務局から説明をお願いしたい。

事務局 ・この準備委員会並びに専門部会はお手元に配付させていただいた資料2の勝山市立中学校再編準備委員会条例と資料3の勝山市立中学校再編準備委員会開催要綱に基づいて行わせていただいている。本日この要綱を改正したいということである。資料3の勝山市立中学校再編準備委員会開催要項(案)をご覧いただきたい。内容の中の第3条第2項でワーキングチーム会議という項目がある。これまで現場の先生方の意見を反映させようということで、ワーキングチーム会議で協議を重ねてきた。ところが昨年11月末に新たに勝山市中高一貫教育推進協議会が立ち上がった。後ほどその他の項目で説明をさせていただくが、現場の中学校、高校の先生方の協議をさらに広く深くするために組織されたものになる。従ってこのワーキングチーム会議は発展的解消とさせていただきたいと考えている。具体的には第3条の削除、第4条の第2項のワーキングチームを削除して、第4条が第3条に繰り上がるというような改正をしたいと考えている。

委員長 ・ただいまの説明に対して何かご質問、ご意見があればどうぞ。他の発展的解消ということなので、特によろしいか。

ではここはそういうことで進めていただけたらと思う。

《今年度の取組みについて》

(専門部会について)

委員長 ・続いてレジュメの6になる。今年度の取組みについて、各部会の説明をお願いしたい。

事務局 ・専門部会について説明をさせていただく。まず資料1をご覧いただきたい。冒頭委員の皆様方にお願いしたように専門部会については総務部会、学校運営部会、PTA部会、施設整理部会、この4つの部会でもって構成をしている。名前のところに丸を付

けさせていただいた部会に所属をしていただいて、それぞれの分野での審議をお願いしたいと考えている。続いてその部会が何をするのかということだが、資料4をご覧ください。スタート時に掲げたそれぞれの部会の協議内容と協議事項を一覧にしたもので、いくつかのものについては昨年度あるいは一昨年度に協議を終えて「済」と書いたものについてはこれまで決定したものになる。ゴシックになっているものは令和6年度から協議を継続する形の内容となっている。斜めのゴシック体になっているものについては7年度に協議をしたい内容となる。一例をあげると、総務部会においては校歌や校旗が斜めになっているがこのようなものを今年度協議をしていただくと考えている。もちろん、これは計画なので、協議を進めていく中で追加とか修正が出てくるかと思われるし、また新たな条件が発生した場合にはその他必要な事項という内容の中で検討していきたいと考えている。次にそれぞれ4つの部会について、一つずつ説明をさせていただく。

①総務部会

事務局 ・総務部会の取組みについて説明をする。資料5をご覧ください。昨年度は総務部会では校章の選定ということで、新しい中学校の象徴となる校章を決めることとした。その校章の選定に当たって、校章というデザインなので専門的な技術をお持ちの方をお願いして、いくつか案を提案いただいて、それに対して子ども達の意見を反映しながら決めていこうという形で選定を行なった。そこに掲げられた4つの案が提案され、これについて小学校4年生以上から中学校3年生までの子ども達にその意見を聞いた。そこに書いてある票が入ったわけだが、こちらの予想とは異なり、校章としてこういった案はいかがなものかという子ども達の声が上がって、その他ということでこれとは違う案がほしいという要望が上がった。そういった意見を尊重する意味で校章については継続審議という形で総務部会において決定をいただいた。ただ、4つの中から1つを選んで、納品いただくという条件でデザイナーの方をお願いをしていたので、案につきましては票の多かった3番を納品いただいて、校章とは別の形で学校の何かトレードマークのような形で使っていきたいと考えている。今年度は校章の協議を継続するとともに合わせて校歌を決めるということである。これについても、専門で音楽的な要素だとか作詞の面では文学的な要素を含むものになる。この辺りについて、今回校章の中で子ども達がこういったものがないんだと後で言う形になったので、先んじて、市民の皆様方、あるいは子ども達の意見を十分聞き取った上でどういったものがないのかということを検討していきたいと考えている。総務部会の皆様方にはよろしく願いたい。

②学校運営部会

事務局 ・学校運営部会だが、学校運営部会の方も昨年度学校の指定物品を決めていただいて、昨年の12月5日には現在の中学校1年生の全てのお子さんと保護者の皆様方にお集まりいただき、説明会を開催することができた。これに合わせて、新制服、そこにつけるエンブレムとか新体操服のロゴマークとかボタンなど本当にこまごましたことを協議いただいて、勝山の中学生として誇りを持っていただけるような制服あるいは体

操服を決めていただいた。今年度については、中高の先生方で中高一貫推進協議会という会ができたので、学校の先生方が具体的に学校教育を行なっていく上で、どのようにしていったらいいのかということとを片面で考えていただきながら、それに対して学校運営部会の皆様方には保護者の皆様とか、市民の皆様方の視点から、もう少しこのような視点を取り入れたらどうかとかご意見をいただきながら、具体的な学校の運営方法について協議をしていきたいと思っている。特に交流連携の内容だとか、教育課程、部活動地域移行等さまざまな協議事項があるが、十分な協議をいただき9年度にかかる竣工式とか、開校式、閉校式についても見通しをつけていきたいと考えている。

③PTA部会

事務局 ・PTA部会の方を説明させていただく。資料の6-1をご覧ください。数字ばかりで見にくいですが先ほど説明があった12ルートがこれになる。例えば平泉寺方面中学生23人と書いてあるが、これは令和9年度、今の中1、小6、小5の児童生徒の中で実際に大矢谷1名とか岩ヶ野で乗る人が1名とかこういう人数を拾ったものになる。したがって1.5km以遠の生徒のマックスの人数がそこに書かれている。これを全部たすと306名になる。中学生の2/3がバスに乗ることができる。それから右側だが、高校生と書いてある。高校に中学生の何パーセントが進学するか、つまり勝高に何パーセント進学するかが分からないので、60%進学するとしての人数になっている。次の括弧の中だが、これはマックスと言っても全員は乗らないかなということで、中学生が80%、高校生が30%乗った場合はこんな人数になるということが書かれている。事務局としては、とにかく対象となる中学生が全員乗れるバスを用意したということになる。この数字は現在在籍している子ども達の人数になっている。今年度はこのバスの車両をどうするのか、運転手のこともあるが、業者が受けてくれるのか、あるいは市全体で朝晩は分かったが日中はどうするのかという市の公共交通の体系もある。その辺りを総合的に考えて今年度は車両を決定し、来年度予算をつけていくという段階に来ている。ここには出発等の時刻が書いてないので、そのこともルートを再検討して細かい部分を調整していきたいと考えている。資料6-2が実際の運行ルートになっている。色がついているところは実際に生徒がいるバス停になっている。白抜きのところはバス停は通るが、生徒はいない。一般の方や高校生がいたら乗せることになる。どの路線もジオアリーナ、福井勝山総合病院、サンプラザ、勝山駅を全て通る路線になっている。さらにここに資料はないが、PTA部会としては別途新中学校のPTA組織はどうするのかということとを昨年度3中のPTA会長を中心に決めていただいているところだが、さらにつめていきたい。それから一方では同窓会は令和8年度で3中とも閉じるということになっている。その締めくくりもしていかななくてはいけない。同時に今の3中のPTA組織も令和8年度で閉めるということも行われることになってくるので、そのあたりも協議していただくことになると思う。

④施設整備部会

事務局 ・最後に施設整備部会の方の説明をする。施設整備部会では、昨年度、新校舎の建設の

準備段階として勝山高校の仮設昇降口と玄関棟の建設とか、新校舎が建つ場所の解体工事、整地工事を進めた。また地下横断歩道やその他の附帯工事を着実に進めてきた。新中学校の校舎の建設に関してはいろいろあって、3回の広告入札をして、落札仮契約をして、3月に市議会の方で本契約を認めていただいて締結に至った。令和9年開校を目指して工事を進めているところである。資料7をご覧ください。こちらがこれまでの発注、今後発注する予定の図面となる。多色使いで見にくいですが説明をさせていただく。まず校舎関連で一番左側に①と書いてある。少しオレンジ色で先ほど言った仮設昇降口棟の工事になる。その下に株式会社豊栄建設と書いてある。受注された場合はそこに工事業者名が入っている。それと合わせて、グラウンド側に逆L字みたいになっているところがある。これも仮設昇降口ということで、こちらを工事関係車両が通るエリアとなっている。それが黄色で表示されている。ちょうど真ん中ほどに②解体工事になる。こちらの方はグリーン開発がちょうど校舎が建つところの部分の解体、整地をする。その右斜め上にも整地工事と書いてあるが、築山の土の撤去もそのグリーン開発にやっていただいている。そして③真ん中ほどの紺色っぽい校舎建設工事で、こちらの方が株式会社熊谷組の福井営業所、大北久保建設、椿坂電機、シマキ工業のJVということで、こちらの方が先ほど言ったが、校舎の建設工事を担当する業者となる。その右側に紫色になる④給食室建設工事を令和7年に発注を予定している。校舎の方はそういう形になる。そして今度は地下横断歩道関連になる。国道側に赤色で吹き出しが書いてある地下横断歩道右側の上の方だが、建設工事ということでこちらの方は国道の下ボックスカルバートを入れる工事である。豊栄建設、坪内建設のJVで工事を進めている。今は国道の中央分離帯の撤去が完了して、いよいよジオアリーナ側から矢板の打ち込みが始まる状況である。その右側⑥には地下横断歩道の付帯設備工事ということで、荒鹿建設がしていた。その下の⑦の青緑色の地下横断歩道の建設工事は公園側の上屋を含めて令和7年度に発注予定である。そして左下に⑧駐車場拡幅工事で浅黄色っぽい感じになる。こちらの方はバスの展開のエリアを広げる工事になる。そして⑨はその左側に上水道移設工事になる。これも令和7年の発注を予定している。その上に茶色部分で地下埋設物等移設補償になる。そして⑩として紫色で囲ってある地下横断歩道全体一期工事二期工事を内装電気工事として、令和8年に発注を予定している。⑫だが一番上の方の黄色い部分に広場拡幅工事と書いてある。こちらの方は敷地の法面のブロック積という想定をしていて令和8年に発注する。地下横断歩道関連が大体こういった形になる。そして今度は勝山高校関係になる。⑬は左側、第1体育館のリノベーション工事を水色で書いているが、こちらは令和7年の2月に完成した。⑭校舎の北側の方に特別教室棟リノベーション工事、先ほども説明があったが、こちらは令和7年から令和8年に実施する。そして、一番下の水色のバックで囲っている勝山高校の寮の建設工事になる。こちらの方も令和7年実施ということで、5月の中旬ぐらいから今年度いっぱいかけて建設を進めていく。これが今回これまでの工事と今後の予定である。そして今年度は新校舎を始めとして、地下横断歩道や県が進める特別教室棟の工事の進捗状況を皆さんと一緒に確認しながら、より良い施設づくりについて、ご意見をいただけたらと思っている。併せて備品とか、図書の整理、その選定作業も3中学校の先生方のご協力をいただきながら進

めていきたいと思っている。さらにそれぞれの学校が築いてきた歴史をどのように受け継いでいくか、各中学校の歩んできた歴史がどのように次世代につないでいくか、その方法についても協議していきたいと思っている。

委員長 ・今の説明に対してご質問やご意見と思うが、あちこちいくのもどうかと思うので順番にいききたいと思う。資料4について何かあるか。まずこれに関して質問とかもう1回説明してほしいとか、よくわからなかったとかでも構わない。

委員1 ・総務部会の校章のところをもう一度教えてほしい。いくつか案があって結局その案の中が一番多かったものということと、他の子どもからの他の案というところをもう一度お願いしたい。

事務局 ・校章については、今ほどの説明で言ったが、デザイナーから提案された4つの案の中から、子ども達に投票していただいて、どれがいいかを決めていこうと考えていたが、その提案をした時に、子ども達の頭に思い浮かべる校章のイメージと提案されたものとの間に少しギャップがあったようで子ども達の反応としては、4つ以外のものと考えたいという意見が中学生の半分ぐらいから出てきた。もともとそれ以外のものを取りようとして、5番目の意見の人はいますかというような聞き方はしていない。4つの中から選んでくださいと言ったが、やはり子ども達の感想として、これ以外のものと考えてほしいといった声が多く出た。学校によって取り方も違うし、きちんとした基準が一定であったわけではないが、非常に多くのそういった意見が出たので、そういった意見を考慮して継続して審議しましょう。つまり今年度にもう一度審議しようということなので、この4つの中から選ぶということではなくて、例えば公募するとかで、より子ども達が納得してもらえる、あるいは市民の皆様が見ていただいた時に、新しい学校の校章としていいと言っていただけるようなものをもう一つ選び直しましょうと決めていただいたということである。ただ、そのデザイナーとの間の関係で、4つの提案いただいたものから1つ納品していただくという約束をお願いをしているので、それはそれとして約束を履行させていただいて、一つはいただいて、そのマークについては校章とは違う形で、学校の何かトレードマークとして使っていきたいと考えている。

委員2 ・正直、周りの保護者からもいろいろと意見が今現在も少しあがっているところがあったので、説明ありがたい。またそのように返していこうかなと思う。

委員長 ・周りにそういう方がいらっしゃるということは、まだまだ浸透していないというか、伝わりきっていない部分もあるのかなと思う。それも含めて事務局で検討いただけたらと思う。他にいかがか。細かいことだが、資料4の表の上から2行目というか、ゴシック体斜めはと書いてある。これそのものもゴシック体斜めにさせていただくと分かりやすい。どれなんだろうと思ってしまう。資料4についてはよろしいか。資料5も今の話がよかったがよろしいか。特によろしいか。資料6-1についてはいかがか。これもよろしいか。何かあったら遠慮なく出していただけたらと思う。よろしいか。では資料7ではどうか。

- 委員 3 ・資料 7 について 2 つ確認と検討していただきたいことがある。1 つ目は生徒の駐輪場になる。駐輪場はどこにするのか。確か昨年度は、勝山高校の駐輪場では数は満たせてなかったと思う。ジオアリーナの駐輪場が活用できるのではないかというアイデアもあったが、私はジオアリーナに週 2、3 回行っているが、やはりあの喫煙所のところが気になる。これも一般の大人の問題かもしれないが吸い殻が捨ててあるという非常に恥ずかしい状態になっている。高校生や大学生ではないと思うが、現状はそういった状況である。距離のこともあるが、中学生の駐輪場として果たして適切なのかどうかということを考えると疑問が残る。私のアイデアになるが②の整地工事、せっかくそこするのであればそこを利用するとか、なんかアイデアがあるといいかなと思った。2 つ目は学校の先生方の駐車場はどこにするのか。勝山高校の先生以外にも当然中学校の先生方の駐車場は必要になってくると思うので駐車場とその駐輪場のところがこの図では分かりにくいと思う。検討されているのであれば説明いただきたいし、検討されていないのであれば必ず必要になってくると思うので、よろしくお願いいたします。
- 委員長 ・駐輪場と先生方の駐車場ということでよろしくお願いいたします。
- 事務局 ・今の段階のことを説明させていただく。一点目の駐輪場だが、PTA 部会では勝山高校の駐輪場を一部貸していただけたらどれくらいかというのを言った。3 つの棟があるがその 1 つの棟の半分ぐらい、それからジオアリーナの駐車場だと約 40m あって 60 から 65 台かという話で終わっている。したがって、今はそこを候補地にして検討を進めていかなくてはいけないということで、まだどこだということは決まっていない。言われるように今から考えていかなくてはいけないと思っている。2 つ目は中学校の教職員の駐車場だが一応今の事務局の考えとしては、ジオアリーナ周辺の駐車場を活用できないか検討している。
- 委員 4 ・それが本当にいいのかどうかはまた引き続き協議かなと思う。例えばジオアリーナで、市の行事であったりとか、スポーツ関係で使う方と学校関係で使うというところが非常にバッティングするのではないかという怖さがある。スポーツ関係としてはよくわからないとか、体育館が使えなくなるといったことを言うし、いろいろ多分言いたいことはあるんだと思う。誤解のないよう進めていくことが必要かなと思う。ここから有効的に使っていけばいいのではないかというのは非常に経費的には楽だと思うが、本当にそれがいいのかどうかは引き続き協議いただきたいと思う。
- 委員 5 ・実際、周りの方からも勝山市のジオアリーナといえば、勝山市で使っている体育館。中学校で使ったりもするということになる、勝山市の体育館なのか、中学校の体育館なのかどちらなのか、そういうふうに思っておられる方も今現在いるので、その点も検討していただけるといいと思う。市民の方が間違えて捉えるとよくないかなというところもあって、本当にスポーツの団体もそうだし、市民の方も体育館が自由に使えなくなるのではないかという声も出ているので、一応伝えておこうと思う。
- 委員長 ・どんどんそういう聞いてきた声とか拾ってきた声もここを出していただけるとありが

たい。

委員 6 ・校舎を建てるために整地から始めていると思うが、見た目が間違いなければ勝山高校の部室は取り壊された状態で、なくなった部室もあると思う。この計画では中学校がどうこう、中学生のためにどうこうということだが、部室一部取り壊しであれば、壊された部活の生徒は困ると思う。全部壊してしまって、新しい部室をどこに立てるかを計画した方がいいのではないかと思う。

事務局 ・説明不足で申し訳ない。実は図面を見ていただくと勝山高校第一体育館の横に少し車路というか、そこは通れるようになるが、実はスロープもある。その右側の黄色いエリアのところに細長い施設がある。そこが高校専用の部室の一部で取り壊した部分の代替施設という計画で、今回の工事の中に含めている。その辺は高校側と話して、その位置に設計の中でもしっかりと今回の工事で新たに作る形になる。

委員 7 ・一部壊してあって一部残っている。全部取り壊しではない。現状はどうか。一部はどこか。

委員 8 ・一部というのは、部室はいろいろあって外側の部の部室と、弓道場側の部室があって、グラウンド側の部室が今全部なくなっていて、きれいになればまたきちんとできる形になっている。

委員 9 ・外の部活で頑張って要る生徒の部室を設けてほしいと思った。今理解できたので大丈夫だ。

委員長 ・他にいかがか。

委員 10 ・主に2つ伺いたい。ジオアリーナの駐車場を使うという件だが、使う使わないという議論はあってしかるべき。単純に、満車時になる時があるのかということを知りたい。常時何パーセントぐらい使っているのかという数字を出すともう少し議論が進むのではないかと思う。それは感想だった。もう1つは勉強不足で申し訳ないが、一番南側にある勝山高校の寮建設だが、どこで場所のできるのか。敷地外か。

事務局 ・こちらのグラウンドからはみ出ているところに、元勝山の市営体育館があった。その2/3が市有地で、その一部を県の方に提供してそこで県の方が勝山高校の寮を建設するということになる。この図面の少し下になるので、こちらには表示はできていない。

委員 11 ・自分の理解だとこの矢印がかかっているところは砂利の駐車場みたいなのになっているのか。そこに今、現場の事務所が建つか。職人達が常駐するようなプレハブはどこに建つか。

事務局 ・中学校校舎の現場事務所の方は、一番東側が民地である。その民地をJVの建設会社がお借りする形で検討を進めている。そちらの方で建つのではないかと聞いている。

委員 12 ・勝手にここに建つのかと思った。基本的には中学生とその職人があまり交わることは

ないことになる。

委員長 ・他に、どうぞ。

委員 13 ・工事だが、今これを見ると、だいぶまだまだあるような感じがする。そこで、一部の保護者からやはり工事による勝山高校の生徒に対する影響を心配される声もある。私も生徒の保護者だから工事期間中に勝山高校の生徒が学校生活に支障をきたすようでは本末転倒になってしまっている。できたらいろいろな部会があると思うので、工事中であっても学校生活に支障のないように過ごせるかということについても、検討と協議をしていただきたいと思うがいかがか。

事務局 ・落札していただいた J V と前段階で事前の初めての打ち合わせをさせていただいた。その中でもしっかりとこれだけの大きい工事になるので、勝山高校の生徒への影響、さらに周辺の地域の方への影響を最小限に抑えるというのは、環境保全対策も含めて大事であるとその J V の建設会社にもしっかりと伝えた。今後は定例の打ち合わせ会がある。勝山高校の行事関係を、高校側から提供いただき、その辺も含めて、テスト期間とか、その他授業ももちろん、騒音の出るところの対応もしっかりと含めてやっていくということの確認も取れている。その辺は連絡を密に取りながら進めていきたいと思うので、どうぞよろしく願いしたい。

委員長 ・工事車両との安全安心から始まって、学校生活のいろいろな面であるかと思うので貴重なご意見だったかと思う。他にいかがか。

委員 14 ・小学校にも、勝高にもプールがあったと思うが、プールを使っていない。プールを改修するかプールを壊したらもう少し敷地が広がって、活用できる場所があると思う。先ほどの話を聞いていると、例えばプールを潰して、そこを整地して駐車場や駐輪場にしたりとか、高校生中学生が一体の駐輪中にすればいい。今置いてある 3 棟の駐輪場の場所を壊して、例えばそこを先生の駐車場にするとか、もう少しお金をかけるといとか、もう少し考えるといろいろなところで敷地が空いてきたりする。思いつきでジオアリーナの駐車場は先生方の駐車場という話に出てしまうと、勝山市もいろいろイベントがあって 5 月末ぐらいにあったかと思う。クロカンマラソンもあるので、全部駐車場に使うような形になってしまうと、先生方が勤務で車を止めさせてもらおうと思ってもなかなか難しい状況になるかと思うので、使わないでプールを考えてもらうのも一つかなと思う。

事務局 ・プールは県の施設である。県との協議もいろいろ進めてきたが、現段階ではプールを解体するという予定はない。先ほども、ジオアリーナの満車時の率、そういったことも含めて、実際先生方がどの辺に停められるかということもあるし、確かに大規模な大会があると埋まっているのではないかという感じもする。その辺も含めて、駐車場所は検討する必要性はあるかと思う。ただ繰り返しになるが、プールの場所については現時点では計画的にはないのでよろしくお願いしたい。

委員長 ・そういうご意見がどんどん積み重なっていくことが大事かと思う。他はいかがか。

- 委員 15 ・いただいている意見だが読ませていただく。「新中学校の将来についてお聞きします。新中学校の理科室、音楽室などの特別教室は勝山高校の校舎を改修して使用すると聞いています。勝高校舎は耐震補強等の長寿命化改修は終了していると思いますが、20年程度の耐用年数でいずれ取り壊しになると思います。新中学校は国が推奨している国土強靱化による100年建設の設計をしていると思います。いずれ中学校の特別教室の新築が必要となるため、今からスペースの確保をしておく必要があるのではないのでしょうか。今年給食室を増設すると聞いていますが、そのスペースを確保しておけば、将来3階建ての中学校の特別教室棟の建物が新築できるのではないのでしょうか。中学校の長期的な計画が必要だと思います。人口減により、中学校校舎の空きスペースを特別教室に改修する案もありますが給排水設備や防音等の対策も必要になるため、厳しいのではないのでしょうか。給食室に関しましては既存中学校のうち1校を活用して小学校を含めた給食センターにしてはどうでしょうか。調理員の確保が難しいと聞いています。給食センターにすれば、災害時に既存中学校が避難施設となり、被災者の方々の食事を作ることも可能ではないのでしょうか。」以上になる。
- 事務局 ・すべてに答えることはできないかもしれない。県の特別教室棟は長寿命化ということでリノベーション工事に入る。かたや中学校の方は新しく建てるということで確かにその差は出てくる。例えば勝高の校舎が20年しか持たないというのは理論的なものであって、実際はさらに延命できることもある。その辺は20年経ったからすぐに建物が壊れるということもない。今後の活用の仕方と維持管理の仕方ですらに伸ばすこともできる。多少その校舎に建設などの違いがあっても、お互いに共有してずっと施設としてはあり続けるということではできないのではないか。いろいろな考え方があるので、文献とかもいろいろあるが、我々はそういうふうに思っている。また今回この給食室は新しく中学校を建てるということで、温かい給食を中学校の皆さんに提供したいということがあって、新たに給食室を建てる。センター化とかいろいろご意見があるとは思う。ただし、各市内の小学校でもそれぞれの自校式の給食があるし、そこはそこでやはり自校式のメリット、センターのメリットもあるが、しっかりと踏まえて今後の活用にしていきたいと思っている。今この中ではセンター化という話は私の方からは答えることはできない。今回の中学校が一つになるということで、そこで生徒の皆さんに温かい給食を提供できるということで、給食室の建設という形になる。
- 委員長 ・よろしいか。意見を預かってきた以上、やはり伝えないといけない。そういう回答になる。
- 委員 16 ・給食室を別に建てると、文科省の補助金が変わってくるのではないか。
- 事務局 ・それは、それぞれ違う。
- 委員長 ・自校給食でという当初からの思いがあって、今こういう風に進んでいるのかなと思う。センターも最近温かいのは温かいが、やはり自己給食の温かさにはやはり追いつかないのかなとも思う。他にいかがか。
- 委員 17 ・先ほどあった駐車場の件だが、今教職員の方でも停める場所でもめている中で学校行事に保護者の車をどこに停めるのか。多分新しい建設場所は昭和町2丁目だと思うが、

ほぼこの学校周辺で行事当日に歩いてきてくださいと言われても多分少ないと思う。北部中、南部中校区の方はほぼ皆さん車で学校に来るようになると思う。あと勝高の寮の建設地の駐車場も、今年の雪の期間はほぼ全部雪で駐車場も入れないぐらいになっていたのも、冬の行事になると車を停めるスペースをどう確保していくのか。路駐になるといろいろな問題になってくる。世帯数に応じた車の確保の方はどうなるのか。

委員長 ・これも今即答できるものではないのかもしれないが、そういう視点がいるのではないかとというご意見ということで受け止めていただけたらと思う。他いかがか。あの時思わなかったが、そういえばというのがあったら、この会が終わってから、あるいはその後日でも結構なので、事務局の方に出していただく。

部会長 ・今いろいろ出てきた内容というのは、かなりの部分で昨年度ある程度懸案事項としてピックアップされた内容だったと思う。この辺のところを今年度スタートするにあたって、やはり前年度持ち越しの部分を検討しなくてはいけない。そのところをもう一度整理資料を事務局で出していただくといいかと思う。駐車場の件もそうだしそういったようなことがいくつかあるので、もう少し抽出して、配布していただいた方が取りこぼしがないと思う。

委員長 ・今回昨年までのおさらいの意味もあつての説明とかもあったと思う。

事務局 ・各部会での昨年度のまとめを踏まえた検討課題というか、そういったものを出した方がいいということかと思う。どうしても口頭になってしまっている部分もある。

委員長 ・今後また各部会も開かれる。各部会ではそういう観点で資料も出てくるかと思う。

事務局 ・事務局でできるところを準備したい。

部会長 ・2点だけ。本当に感想ベースの話になるが、確かに特別教室棟の今後の改築が30年後になるか、40年後になるかわからない。どういうことができるかなと考えると、多分ベースとしてこの位置になると、多分仮設校舎を建てて同じ場所に建て替えるというのが一番ベストな選択肢かなというふうにも感じた。他には多分南側に校舎をずらすという提案もあると思うし、その都度、木下さんが言われた延命というやり方もある。日本の技術は本当に進化しているので、30年後になると、ものすごく延命技術も耐震改修、さらに耐震改修ということもあるので、どうなるのかわかんないが、ここの高校と中学校の間に特別教室があるのが一番いい使い方ではないかとは思った。駐車場の問題は結構多分いろいろあるとは思いますが、個人的な意見としては、せっかくバス待合所を作っているの、周辺の空き駐車場というところは、多分市役所にも多分あると思う。そういうところもご協力いただきながら、イベント時にはその辺りに停めていただいてピックアップしていくようなやり方もあるのではないかなというふうに思った。一気に作ることは望ましいが、今使われていない駐車場をどんどん活用していくというのもあるのではないかと思った。

委員長 ・では、時間ももうそろそろなので、もう一点残っている次に移らせていただく。

《その他》

(中高一貫教育推進協議会について)

委員長 ・ 7 のその他、推進協議会についてお願いします。

事務局 ・ 今までいくつかの説明の中で話題になった勝山市中高一貫教育推進協議会について、簡単にご説明をさせていただく。この準備委員会が学校ができるまでの基本的なものを決めていただくということに対して、推進協議会の方は、文科省の方で中高一貫教育をする場合には、高校の校長先生と中学校の校長先生が協議をして教育課程を編成することとなっている。その場合については、こういった組織を作って中学校の先生と高校の先生が直接話をしていろいろなことを決めていくことが望ましいとされている。それに従って作っている協議体でこの会については学校ができた後もいわゆる中高の合同の職員会議のような形でずっと続いていくものである。こういう性質を持った組織になる。具体的には資料の 8 - 1 に図化して書かせていただいているが、推進協議会として中学校の 3 人の校長先生、それから高校の校長先生を始めとして、県教育委員会高校教育課の担当の方、そして教育長等を含めて、この会が一番上位の会議でその方針を決めていく会となる。その下に連携推進委員会という委員会があって、この会が具体的に実際にどういったことを決めていくかということを確認していただく。全部で 6 つの部会がある。教育課程部会、進路支援部会、生徒支援部会、そして教科部会として英語と数学、そして探究部会というのもあり、中学校の 3 人の先生、それに高校の 1 人の先生ということで、基本的には 4 人、あるいはそこに教頭先生が入って 5 人というようなことで協議を進めている。一例で教育課程部会だと、例えば中高と一緒に教室を共有する。理科室とか、先ほど説明をさせていただいた音楽室とかと一緒に使うとなると校時表がそろっていないといけない。極端な話、チャイムがいつでもなってお互いに邪魔になるということになりかねないので、ここはチャイムのなる時間をそろえた方がいいのではないかということとすると、高校の生活のリズムがあるし、中学生の生活のリズムもある。何時に学校を開けることにするのかとか、それから高校は弁当だし、中学校は給食で、どちらかというと中学校のほうが給食に時間がかかるので、そのあたりをどう調整していくかを具体的に協議している。もっと言うと朝遅れてきた子が高校の子はここから入っていいよとか、中学校の子はここから入るというような時にその調整をどうするのか。高校には守衛さんがいるので、極端なことを言うとどんなに早く来ても学校に入ることができる。中学校の場合は教員が何時からしか来ない形になっているので、ある程度の時間より早く来ても前で待っていないといけない。その辺りをどう調整していくのか。本当に細かいことをいろいろ協議いただいている。先ほど、駐車場の話もあったが、ここで決めていただいて、ある程度一定の条件の中で実際に学校運営をしようと思うと、どうしていくか。例えば駐車場がいっぱいになってしまうから保護者会は学年ごとに変えなくてはいけないのではないかと、アイディアとしてどのような形で学校運営をしていくのかがいいかを協議していただくような会であるのご理解いただければと思う。すでに今年度第 1 回の会議を終えて、いよいよ部会の協議が始まるところである。特に英語と数学については、先ほど連携で高校の先生が応援に来て中学生を教えるというようなこ

とも取り入れられるということなので、差がつきやすい英語とか数学については、高校の先生に来ていただいて上位の高校のレベルの勉強も興味のある子は習うこともできるし、その子たちと先生が入ることで人数が少人数になってより丁寧な教育が受けられるというような形に持っていくこともできるし、一緒に勉強をすることができるという環境を先生方の工夫でいいものにしていきたいということを考えている。そういったことが中高一貫推進協議会の組織であるということで説明をさせていただいた。

委員長 ・今の説明について、何かご質問等あればお願いしたい。よろしいか。私からのお願いだが、とにかく目の前のことではなくて、これから中学校に入っていく子たちが将来世の中に出ていくそのことをイメージしてバックキャストで、だからこそこういう教育を今はしていけないといけないという観点で、ぜひご検討いただけたらと思う。少し時間をいただいて、学習指導要領というのがあって、それに基づいて学校の教育をどうするのかということが、10年に1回ぐらいで改定されている。まだ残り4、5年あるが、もう既にその次の学習指導要領を作るのに向けて、審議が始まる段階になっている。これからこうだということを説明したものがあがるが、その中で僕も非常に印象的な使われている言葉として、「包摂」がある。包むに栄養を摂取するの包摂する。包むということ。話が変わるみたいだがこの土日に、福井大学の教職大学院のカンファレンスというのがあって、東京サテライトというところで、東京の院生たちがグループで語る中にも出てきた言葉になる。最近の学校は、今までは学校に生徒が合わせるような学校、こうだからというルールがあってそれに生徒たちがいろいろな我慢をしながら合わせていく時代だった。これからは学校が生徒に合わせるということになる。昨年、一昨年も私が言ったように一人一人のすべての生徒を包むような、包摂するような気持ちで、いろいろなことも考えていただきたいと思います。生徒に合わせる学校が合わせるというのは、生徒のわがままに合わせるという意味ではない。再度言ったが、将来の勝山を背負う子たちだと思うので、覚えてどれだけではなくて、今、目の前の課題をみんなで力を合わせて解決するような練習をどんどんしていって、そして大人になった時も勝山の課題をどんどんと解決して、より良い勝山にしていけるような、そういう経験をぜひ中学校で高校でやっていけるようなものにしていただきたい。この推進協議会も手段が目的化することなく、ルールを決めるというのが目的ではなくて子ども不在の議論にならないように必ず子どもを真ん中に置いて子どもをイメージしながら話していただけたらと思っている。時間もあるので、私からのお願いを最後に申し上げた。今日皆さんにいろいろなご意見を出していただきありがとうございます。今年度も引き続き各部会でもこの場でも自身のご意見、預かってきたご意見、どんどんと出していただけたらと思う。各部会もこれからあるかと思うが、先ほどご意見をいただいたように昨年度までの課題も整頓しながら引き続き活発な議論を期待している。では事務局にお返しする。

事務局 ・いろいろご意見をいただきありがとうございました。これで第1回勝山市立中学校再編準備委員会を終わらせていただきたいと思います。これから各専門部会を開催していきたいと思います。関係の委員の皆様には、後日ご案内を送付させていただくので、

よろしくお願いいたします。本日はお忙しい中ありがとうございました。

資料 1. 令和 7 年度勝山市立中学校再編準備委員会（専門部会）委員名簿

資料 2. 勝山市立中学校再編準備委員会条例

資料 3. 勝山市立中学校再編準備委員会開催要綱（案）

資料 4. 令和 7 年度準備委員会（専門部会）検討・協議事項（案）

資料 5. 校章選定のための児童・生徒投票結果

資料 6-1. スクールバスについて（案）

資料 6-2. スクールバス路線図（案）

資料 7. 新中学校工事進捗図

資料 8-1. 勝山市中高一貫教育推進協議会組織図

資料 8-2. 勝山市中高一貫教育研究協議会会則

参考資料. 勝山市立中学校再編準備委員会だより第 2 号

参考資料. 勝山市立中学校再編準備委員会だより第 5 号